

会 議 録

1 会議名

平成 30 年度第 1 回津有区地域協議会

2 協議事項（公開・非公開の別）

(1) 地域活動支援事業について （公開）

- ・平成 30 年度地域活動支援事業の採択決定までのスケジュール
- ・年間スケジュールについて

(2) 自主的審議について （公開）

3 開催日時

平成 29 年 4 月 26 日（木）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

4 開催場所

津有地区公民館 1 階 中会議室

5 傍聴人の数

1 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委 員：太田政雄、塩坪貞雄（副会長）、清水昇一、中嶋博、服部香代子、
古川昭作、保坂和彦、丸山常夫、宮越隆一、山菅節子、吉崎則夫（会長）、
渡部稔 （欠席 2 人）
- ・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、野口係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、成立を報告

【吉崎会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認者：保坂委員

【田中主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【吉崎会長】

議題「(1) 平成30年度地域活動支援事業の採択決定までのスケジュール」について事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料1により説明

現時点での地域活動支援事業の提案状況について、募集期間は4月2日から4月27日までであり、現在、提案が確定しているのは7件で、金額にすると391万8千円である。配分額に対して66%の消化率となっており、残額は198万2千円である。前年度に比べると金額・件数ともに少ない。また、明日が締切だが提案が来ているもの以外の相談はない。提案書は5月8日に送付できるよう準備している。

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

事務局からの説明にもあったように、今年度はヒアリングから採点・決定までの期間が短くなっており、今回初めて仮採点の形を取るのでもよろしくお願ひしたい。

(質問なし)

説明のあった支援事業の提案状況について、質問はないか。

(質問なし)

なければ議題「(1) 平成30年度地域活動支援事業の採択決定までのスケジュール」については終了する。

次に、議題「(2) 年間スケジュール」について事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料2により説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

【太田委員】

「地域アンケート配布」が7月になっているが、事前に協議会委員には内容を示してもらえるのか。

【田中主事】

津有地区地域づくり協議会との情報の共有を図りながら、事前に協議会委員に概案を出し、アンケートを配布してもらう予定である。

【吉崎会長】

他にないか。

【保坂委員】

3区の合同研修会を今年度も行うということで、「雄志中学校生徒との意見交換会」とあるが、今までは中学生のワークショップの発表であったが今年度は発表はやらないのか。

【田中主事】

どのような意見交換会にするのか9月頃に事務局と雄志中学校区青少年育成会議で調整し、意見交換会のテーマも含めて協議する。

【吉崎会長】

他にないか。

(質問なし)

事務局から提出のあったスケジュールで進め、今後変更があった場合はその都度対応していくということで議題「(2) 年間スケジュール」については終了する。

次に議題「(3) 自主的審議」について事務局に説明を求める。

【田中主事】

・資料3～5により説明

【吉崎会長】

今の説明に質疑を求める。

(質問なし)

なければ協議を進める。自主的審議事項の個別テーマだが、事務局から説明があったように資料5は事前に各自考えてくるとなっていた。前回、各委員より出してもらったキーワードに関してもテーマが大きいため、絞り込みを行い、自分たちで協議できるレベルまで小さいものにしていく必要がある。とりあえずは各自の振り分けはどうかを教えてほしい。キーワードとしては10個挙げているので、「地域で解決できるもの」と「市が動けば連動して動けるもの」、「市に解決を求めるもの」の3つに分けるために、まず「地域で解決できるもの」についてあるか。

【太田委員】

「2 地域活動の減少」で、これは地域でもう少し活動の場を作れば良いと思い、また「4 子供の集まる機会が少ない」も同じように地域で計画すればできそうな気がする。さらに「6 屋根の雪下ろし・雪かき」や「10 地域の組織」についても地域でできると思う。

【清水委員】

太田委員と同じ意見である。

【中嶋委員】

「9 高齢者サロン」がもう少し何かできないか、と考える。

【服部委員】

私は「4 子供の集まる機会が少ない」、「9 高齢者サロン」、「10 地域の組織」である。

【古川委員】

私は「2 地域活動の減少」、「4 子供の集まる機会が少ない」、「10 地域の組織」である。

【保坂委員】

私は「2 地域活動の減少」、「4 子供の集まる機会が少ない」、「9 高齢者サロン」、「10 地域の組織」である。

【丸山委員】

「2 地域活動の減少」、「4 子供の集まる機会が少ない」、「10 地域の組織」が地域で解決できるのではないかと考える。

【宮越委員】

これに関してはあまり答えることがない。

【山菅委員】

「4 子供の集まる機会が少ない」と「6 交通手段」は高齢化してきているので考えたほうが良いと思う。「9 高齢者サロン」は行きたくても行く手段がないという方もいるため、行く手段や行きやすい方法を考えてあげるべきと考える。

【渡部委員】

「2 地域活動の減少」、「4 子供の集まる機会が少ない」、「9 高齢者サロン」「10 地域の組織」の4つである。

【塩坪副会長】

宮越委員と同じく少子高齢化はどうしようもないと考える。この辺に住んでいる人たちが色々言っても簡単に解決できないと思う。親子で生活していて子供が熱を出しても世話をする人がいないことも多い。自分にも90歳になる親が2人おり、免許証を返納しているので、どこかに行くとなると自分が連れて行っているが、親だけで生活している場合は出たくても出られないため、交通手段がないという問題が出てくる。「9 高齢者サロン」と言っても、今は65歳まで勤めている人が多いため送っていく人がおらず、ボランティアも強制的に町内会で担当している状況である。解決するには、行政が主軸となって動いてくれないとダメだと思う。

「10 地域の組織」は昔、自分の地域でやったこともあるが、企画をした結果、出てくる人間が少ないことが多く、1、2回は開催するが毎回出席する人数が少ないため、やらなくても良いのではと考えてしまい、結果何も変わらない。よほど役員がしっかりした考えのもとやれば違うと思う。

【宮越委員】

現在、町内会長をしているが、色々話しは出てくるができないことも多く、塩坪副会長が言うように、やったは良いが、組織を作って終わりという状況が出てくる。繰り返すようだが、当初、津有区で何を取り上げるかとなった時に「少子高齢化」が挙げたが、いまひとつ私自身は賛成できなかった。申し訳ないが、自分自身で良い考えがないため、何をやったら良いのか答えようがない。

【吉崎会長】

意見のない方もいたが、ある程度は出てきていると思うので、後ほど、まとめの中で協議を行う。

次に「市が動けば連動して動けるもの」をお願いする。

【太田委員】

「3 共働きによる子育て」は、市で子育て広場を開設しているが、親子だけではなく老人も来て一緒に遊べば良いと思うが、市であまりPRをしていないように感じる。子育て広場を多くの人が利用して、子育ての経験がある人も地域の子供たちと一緒に遊べたら良いと思う。「9 高齢者サロン」は現在、市で動いてはいるが、もっと市が動かなければ地域は動かない。

【清水委員】

「1 若者の流出」と言ってもどんどん出て行ってしまいうし、しいて言うならば「7

屋根の雪下ろし・雪かき」位しかないのではないかと。

【中嶋委員】

特に考えが浮かばず、申し訳ない。

【服部委員】

「2 地域活動の減少」は例えば、以前に市がスポーツクラブを立ち上げる際に地域に動きがあったが、そのような形の考えで良いのか。あと、「3 共働きによる子育て」は現在、市民プラザなどにこどもセンターがあるが、同じような場所がもう少し増えればと思う。今は共働きでも遅くまで預かってくれる保育園や幼稚園が増えてきているが、逆に共働きだと収入があるので利用料金が高くなる、という面もあるのが問題になってくるのではないかと。「6 交通手段」は頸城バスなどの巡回バスのようなものがあるが、実際は本数も少なく、高齢者にはステップの昇降も大変である。それを市に要望した場合、そのように動いてくれるか、そのような連携を取ってもらえるか分からないが、10項目のどこかに当てはめなければならぬのであれば、以上の意見である。

【古川委員】

「1 若者の流出」は若者がいないという問題が重要で、市と協力しながら行っていないと流出は防げない。「3 共働きによる子育て」は働く環境から連動するが企業誘致が大事。共働きで子育てすることはとにかく難しく、生活環境を良くすることが問われると思う。「7 屋根の雪下ろし・雪かき」は地域でできる所は良いが、いずれにしても地域住民が高齢化してくる問題があるので市が動くほうが良いのではないかと。

【保坂委員】

皆さんと同じだが、「3 共働きによる子育て」は各企業に協力してもらうために、行政からの働きかけが必要ではないかと。「7 屋根の雪下ろし・雪かき」も労働作業が伴うので保険をかけるとなった場合、行政がある程度協力するのも良いのではないかと。「1 若者の流出」も市と一緒にやる必要がある。

【丸山委員】

「1 若者の流出」は、まずは若者がいなければ盛んな地域活動が生まれにくいという問題がある。「2 地域活動の減少」は、現在は「ファミリー綱引き」しかないが、昔は色々な球技などもあった。昔は地域でも盛んに動いていたように思うが、今は各地域に様々な声かけがあるのかも分からず、見直すべきである。

【宮越委員】

市が動けばという余計に難しくなる。市が動くということは予算を出すということで、それで解決すれば御の字である。

【山菅委員】

皆さんと同じになってしまうが、乗り合いバスのようなものがないと地域住民がなかなか出られなくなっているため、市で考えてほしい。買い物難民のようになっており、地域のお店もどんどん無くなっているため、大きなお店に買い物に行かなければならない。高齢者が増えてきているので考えたほうが良い。

【渡部委員】

「1 若者の流出」は市が動いて、流出を防げるような魅力ある施設等を作っても良いのではないかと。「5 独身世代の増加」は価値観の違いが出てきており、結婚しない若者が増えてきているので、市と地域で協力して婚活をすれば違ってくると思う。「6 交通手段」も巡回バスなど考えるべきである。「7 屋根の雪下ろし・雪かき」も市が助成して高齢者の手助けをする方向で動かなければ変わらないと思う。

【吉崎会長】

最後に、「市に解決を求めるもの」を順番にお願いします。

【太田委員】

「1 若者の流出」は県でも予算をつけているが、そもそも働く企業が少ないので市で解決してもらおう以外ない。それに伴い「5 独身世代の増加」は働き口がなく給料が少なければ結婚もできない、という悪循環に陥るので市に何かしてもらおう以外ない。

「6 交通手段」は現在、市で補助金を出してバスが動いているが、町が変わっても昔からの路線で全く変わっていない所が多いので改めて、違う路線を運行するなどの対応を検討するべきである。

【清水委員】

「1 若者の流出」、「5 独身世代の増加」は職場がもう少し環境を整えるべきである。独身世代も女性に会う機会が少ないのか、引いてしまうのかなど、悩みは様々だとは思いますが、積極的に策を考えるべきである。

【中嶋委員】

「3 共働きによる子育て」、「6 交通手段」はもっと市から助成金もしくは無償で何かできるような環境を作らないとなかなか解決は難しいと思う。

【服部委員】

市だけで解決となると難しいと思うが、「1 若者の流出」は働き口が少ない・戻ってくるだけの魅力がないという問題があり、たとえパーティーなどを開催しても年間1回ではなかなか戻っては来ないと思う。また、新潟市のように遊べる場所が上越市にはない。たとえ武道館ができて、それほど働き口ができるわけではない。市・県・国が動けるとなると、「1 若者の流出」、「5 独身世代の増加」くらいではないか。

【古川委員】

「6 交通手段」は、今は自分自身まだ必要なくても、いずれ高齢になった時に巡回バスなどがないと、買い物に行けない等の問題が出てきて、直接的に食生活にも問題が出てくる大事な問題なので考えなければならない。

【保坂委員】

私も「6 交通手段」は行政で考えなければならないと思うし、「5 独身世代の増加」は、婚活までは行わなくても、交流の場を作っても良いのではないか。新潟県では、横澤夏子さんをにいがた婚活応援大使に任命し、様々な活動をしている。上越市でもそれを受けながら何か動いても良いと考える。それに関連して「1 若者の流出」は、地元の企業に就職すれば奨学金を返済しなくて良いなどの制度もあるが、弱いかもしれないため、考えるべきである。

【丸山委員】

「6 交通手段」は巡回バスなどを動かすべきだが、1つ疑問なのが頸城区では過去に頸城村だったことから運行していた巡回バスが現在でも動いている。合併前上越市は大きいにも関わらず巡回バスが動いていないようだ。高齢者は交通手段がないから子供が送迎をしているなどの問題も巡回バス等があれば多少は解決するのではないか。高齢になり免許を返納するとなった時に巡回バスやタクシーなどをもっと気軽に使えれば買い物なども楽になると思う。

【宮越委員】

「1 若者の流出」はある程度の良い給料の就職先や人が集まる文化的な施設が少ない。コンサートを開催しても、上越市にはまず来なくて、来ても新潟市、ほとんどが東京である。「6 交通手段」は自分の行きたいところにバスが走っていなければ、タクシーに週1回無料で乗れると言ったような策を考えてはどうか。週1回でサービスが使えれば最低限の生活に支障がないと考える。

【山菅委員】

「1 若者の流出」は、若い人たちが休みになっても行くところがないという意見を聞くので何か考えると良い。「6 交通手段」も朝に病院へ行きたくても時間が合わないという意見がある。路線があるところは良いが場所によっては乗換えや路線がなく、徒歩やタクシーを使う所もあるので、せめて大病院まで直接行ける手段を作ってはどうか。

【渡部委員】

「3 共働きによる子育て」は、どんどん子供を預けられる場所を作っていく方向で行かないといけないと思う。核家族で年寄りに常に子供を預けられる環境ではない家庭も増えてきているので、環境を作る方向で行政に動いてもらうしかないと思う。

【塩坪副会長】

現在、上越市には待機児童はいるのか。

(「いない」の声)

保育士や幼稚園教諭は苦勞をしているとの話もあるが、他の地域とは違って上越市はその辺は充実していると思う。皆さんから「3 共働きによる子育て」との意見も出たが、それは他の地域よりは恵まれていると思う。小学校でも少し遅くまでいても良いようになってきている。それに引き替え、休みにどこかへ行くところ、遊ぶところがないのが問題である。新幹線が出来て東京まで2時間であり、日帰りでも行けるようになったため、仕事が問題ではないか。車で新潟市に行くより新幹線に乗って東京に行ったほうが安全で速い。今までも市に何か求めても何も動いてくれていないのが現状である。

【吉崎会長】

本日皆さんから出してもらった意見を、振り分けなければいけない。

【田中主事】

それぞれの意見をまとめたものを報告する。

「地域で解決できるもの」は「4 子供の集まる機会が少ない」が9人、次に「10 地域の組織」が8人、「2 地域活動の減少」と「9 高齢者サロン」が6人であった。その他、「7 屋根の雪下ろし・雪かき」が2人、「6 交通手段」が1人であった。

次に「市が動けば連動して動けるもの」は、「1 若者の流出」、「3 共働きによる子育て」、「7 屋根の雪下ろし・雪かき」が4人、「6 交通手段」が3人から意見があった。

次に「市に解決を求めるもの」は、「6 交通手段」と「1 若者の流出」が6人、次に「5 独身世代の増加」が5人、「3 共働きによる子育て」が2人から意見が出た。

【吉崎会長】

事務局より各項目に対しての集計の報告があった。本日は各項目に対しての振り分けまでとし、まだまだテーマとしては大きな中身なので、今回はさらにテーマを絞り込んだ形で進めてしていきたい。

次に「地域住民に聞きたいこと」アンケート項目として聞きたい内容について協議に入る。

先ほどの個別テーマに関連付けたものが良いと思うが何か意見はあるか。

【太田委員】

先ほど色々意見が出た中にあった施設に関することだが、若者がコンサートのために新潟や東京に行くとか聞く。コンサートなどを開催できる施設がないのだが、若者はどのような施設を望んでいるのかを聞きたい。市から「作る」ではなく、住民から「どのような施設を作ってほしいか」を聞いてみたい。

ほか、巡回バスの件だと、「巡回バスのほかは何が必要か」など、先ほど問題や意見としてでたものに関連付けて聞いてみてはどうか。

【吉崎会長】

先ほど皆さんの意見で巡回バスの意見もあったが、逆にお店から来てもらうのもありではないか。昔、移動食品販売のようなものがあったが最近はなくなってきた。しかし、山間地域では最近復活してきたとの話もある。もし、そのようなサービスがあれば利用したいかを聞いてみてはどうか。病院はなかなか移動が難しいが食品や雑貨であれば可能だと思う。

【服部委員】

若者はどの程度インターネットでの買い物を利用しているのかも聞いてみたい。

他に、自分は10数年前に男女共同参画の推進委員をやっていたのだが、様々な団体が企画する出前講座などにどのくらい興味があって、どのくらいの人に参加したことがあるのか聞いてみたい。例えば、地域・町内会・市民団体・企業に向けて「介護支援」等の講座を開催する場合、津有地区の人ほどの程度興味があるのか。

【吉崎会長】

どういう講座があったら聞いてみたいかを聞くということか。

【服部委員】

そうである。

【古川委員】

若物の流出だが、出ていく先や行きたい所はどこなのか。また、その先にはどのような魅力・メリットがあるのかを聞ければ、何かのヒントになるのではないか。

【丸山委員】

地域住民に聞くのであれば、まずは地域に対してどのような不平不満があるか、ざっくり聞いてみてはどうか。たとえば、交通手段だけではなく、もっと細かいことでも良いし、むしろ「隣の猫がうるさい」等の意見も出るかもしれない。設問を細かく設定しない方が色々な意見が聞けるのではないか。

【太田委員】

どちらかという高齢者が多いのだから、高齢者に何が不満か、住みにくいと感じているかを聞いてみてはどうか。

【保坂委員】

住んでみたい街、住み続けたい街のイメージを持っている人が多いと思うが、大きなイメージの中で地域住民がどのように思っているのか聞いてみたい。

【吉崎会長】

中学生との意見交換会の際に住み続けたいなどと意見が出ても、結局市外へ出て行ってしまふ。悲しいことだがどうして気持ちが変わったのかなども聞いてみたい。

【宮越委員】

どのような形式でアンケートを取るのか。選択式なのか、記述式なのか。記述式にすると皆さんなかなか書かないと思う。逆に3択・4択式にすると設問を作るのが難しい。

【田中主事】

アンケートは、簡単なフォーマットであれば回答率は上がるので、基本的には選択式の設問が望ましい。

【宮越委員】

皆さんが今ほど聞いてみたいと挙げた内容を実際に聞くとすると、答えるのは難しいように思う。そうすると設問をどのようにすると答えやすいのかが難しい。

【田中主事】

皆さんから出た意見をそのままアンケートに取り入れるのは難しいが、求めている回答に近い意見が出てくるよう設問を工夫してアンケートの作成に協力したい。

【吉崎会長】

他にないか。

今ほどの意見すべてを聞けるかは分からないが、なるべく聞けるよう今後町内会長協議会等を通して内容を決めていき、出来上がったら各委員に報告する。

以上で「自主的審議」については終了する。

次に「その他」について事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・ 次回の協議会：5月24日（木）午後6時から ファームセンター 農事研修室

【吉崎会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690（直通）

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。